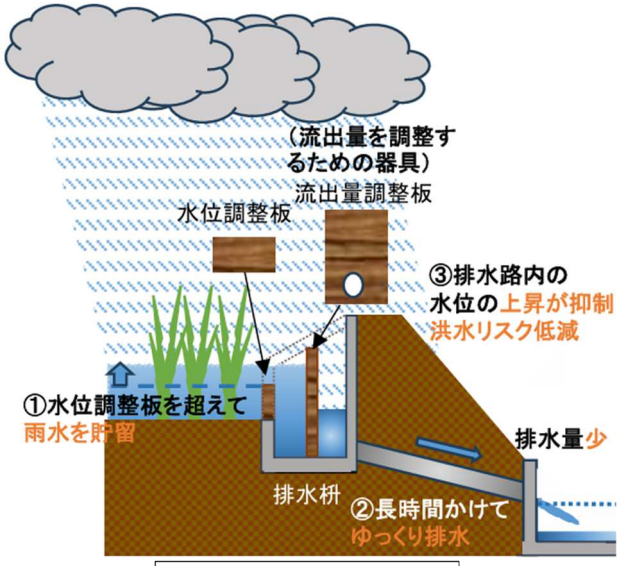
流域治水の取組　流域治水オフィシャルサポーター（その 16）

1. 「田んぼダム」とは？

近年、気候変動に伴う豪雨の激甚化・頻発化により、河川整備だけでは対応が難しい水害が増えており、従来の河川整備や雨水貯留施設だけでなく「流域治水」の考え方が重要となっています。

「田んぼダム」とは、水田の排水枡に流出量調整器具（調整板など）を設置し、雨水をゆっくり排水することで、河川や排水路への流出を抑制する取組で、水田を活用した流域治水対策として全国で取組が広がっています。

多くの水田が一体となって、「田んぼダム」の取組を行うことで、流域全体として大きな効果が期待されます。



「田んぼダム」のイメージ

出典：農林水産省 HP
（https://www.maff.go.jp/j/nousin/mizu/kurasi_agwater/ryuuiki_tisui.html）

2. 『「田んぼダム」の手引き 令和 8 年 3 月』の紹介

「田んぼダム」の取組の普及に向けて、近年の知見・実践事例を反映した『「田んぼダム」の手引き（令和 8 年 3 月）』を本レポートで紹介します。【出典：農林水産省 HP（https://www.maff.go.jp/j/nousin/mizu/kurasi_agwater/ryuuiki_tisui.html）】

○手引き作成の構成

田んぼダムを導入・継続するためには、農業者、土地改良区、自治体、河川管理者、地域住民、防災関係者等が共通認識を持ち、地域全体で合意形成を図ることが要です。そのため、手引きでは、

- 「田んぼダム」の基本的な考え方
- 誤解されやすいポイントの整理
- 地域合意形成の進め方　・流出抑制効果の考え方
- 効果的な実施条件　・維持管理の方法
- 全国の先進事例

などが体系的に整理されており、初めて取り組む地域にも分かりやすい内容となっています。

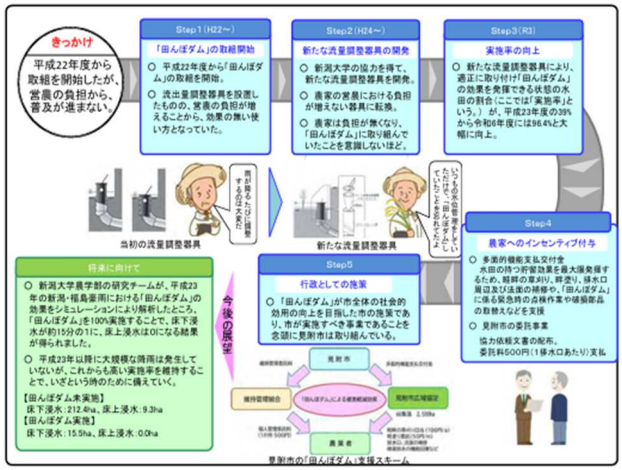
○「田んぼダム」の営農への影響

「田んぼダム」の取組を行う際、農業者が最も気になる営農への影響について、これまでの実証結果等を踏まえて、4 つの観点〔観点①：水稲の収量・品質への影響、観点②：管理労力への影響、観点③：農作業への影響、観点④：畑地への影響〕より整理されています。

○「田んぼダム」の取組事例・支援制度

全国の「田んぼダム」の取組事例として、北海道 岩見沢市、宮城県、福島県 須賀川市、栃木県・小山市、新潟県 見附市、愛知県 豊明市、鳥取県 鳥取市、岡山県 倉敷市、香川県、福岡県 筑後市、佐賀県 佐賀市、熊本県 球磨地域が紹介されています。

また、「田んぼダム」の取組で必要な、堅固な畦畔や貯留した雨水を迅速に排水できる排水枡などの整備・適切な維持管理等に対する支援制度〔令和 4 年度より始まった「田んぼダム」の効果に係る調査・検討、話合い等の調整に係る経費、「田んぼダム」の実施に必要な堰板等の流出量調整器具の購入などに係る経費、畦畔補強、排水枡の整備等を定額で支援等〕が紹介されています。



新潟県 見附市の事例

出典：農林水産省 HP
（https://www.maff.go.jp/j/nousin/mizu/kurasi_agwater/ryuuiki_tisui.html）

3.弊社からの情報提供

弊社では流域治水に関連する様々な業務の実施や MCC 研究所では様々な技術開発・研究を実施しており、今後も業務・研究等を通じた流域治水に資する取組を継続・強化していきます。技術的な相談がございましたら、下記 URL よりお問い合わせ下さい。

https://www.mccnet.co.jp/